

長期研修員事業の現状、課題別研修および その他のRAMPの活動に関する報告

2020年11月20日

JICA社会基盤部

- 長期研修員事業の近況
- 課題別研修
- その他RAMPの活動等



【概要】

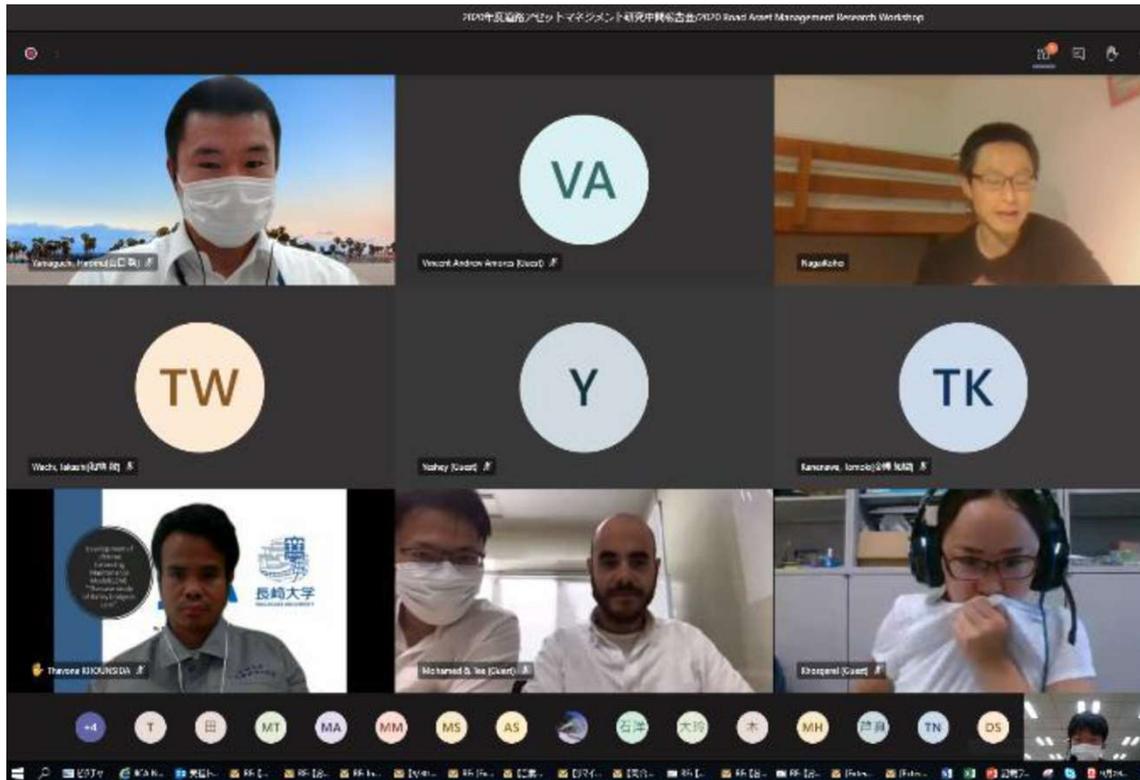
2020年9月29日(火)、国内に在学中の6名のRAMP長期研修員による研究中間報告会を実施。

【目的】

長期研修員間、研修員所属機関の上長および指導教員に就学状況を把握してもらうこと、来日を予定している、2020年度RAMP長期研修員への来日を待機している現況に対するフォロー。

【参加者】

在学中長期研修員 6名(ラオス,バングラデシュ,モンゴル,エジプト,フィリピン)
来日予定長期研修員 18名(8カ国)
指導教員 3名(東京大学,岐阜大学,琉球大学)
長期研修員上長 2名(ラオス,バングラデシュ)



発表題目

- ・「熱可塑性FRPによる複合付着方法で曲げ補強されたRC梁の評価」
- ・「学習法による対候性鋼の腐食分類」
- ・「**開発途上国**における橋梁維持管理の現状と能力を改善するための分析」
- ・寿命延長維持モデルの開発“**ラオス**のベリ-橋の事例研究”
- ・**ラオス**の国道ネットワークの粗さ予測モデルの開発
- ・摩擦継手のスライスプレートの腐食による滑り抵抗の減少の評価

東京大学生産技術研究所 長井宏平准教授コメント(全体総括)

研修生の出身国が抱える問題の把握や、問題に対して日本がどのような対応ができるかを考える機会を得ることができた。皆様の研究は実用的であり日本の技術をどのように適応させるかのヒントを得ることができた。コロナ禍であるが残りの生活を楽しみ、帰国後も日本とのつながりを持ち続けて頂きたい。今後も同様な報告会に積極的に参加し日本および他国の方々とコミュニケーションを取り多くのことを学んでほしい。

【概要】

開発途上国における中核人材を育成するため、受け入れた長期研修員に対して、研修をより充実したものとするため、希望する長期研修員に対して国内の企業・団体でのインターンシップの機会を提供するもの。

【目的】

インターンシッププログラムは以下を目的として実施される。

- ① 日本の道路分野における優れた道路アセットに係る技術・取組、また日本の職業倫理・文化等への知見を深める。
- ② 自身の研究論文や、研修終了後の自国における政策立案・実施に役立つ知見を得る。
- ③ 日本の企業・団体および日本人とのコネクションを得る。

①エントリー



覚書※

- 自治体、企業から複数のエントリーあり
- 受け入れ先を開拓中
- 今年度はオンラインによるインターンシップ^o機会の提供を検討中

※【道路アセットマネジメントの実施に係る公益社団法人土木学会と独立行政法人国際協力機構との覚書】(2019年3月5日) 第4条(協力内容)「長期研修員が長期研修期間中に実施するインターンシップ活動の土木学会会員企業の受入れに関すること」に基づく支援

- 長期研修員事業の現状
- 課題別研修
- その他RAMPの活動等



2020年度要望調査結果

研修名	ターム年度	要請人数	方針	備考
ITS(高度道路交通システム)業務	2019～2021	10	継続	
交通安全	2019～2021	15	継続	
道路アセットマネジメント	2019～2021	21	継続	
道路行政	2019～2021	16	継続	
橋梁総合	2020～2022	14	継続	
社会基盤部整備における事業管理	2020～2022	7	継続	
橋梁維持管理	2021～2023	21	更新	採択
道路維持管理	2020～2022	56	継続	
都市内道路総合	2021～2023	<u>4</u>	更新	不採択

- 「都市内道路総合」は要請人数が少ない結果となったため不採択。
- 「都市内道路総合」は2021年度の要望調査に向けて研修内容等の検討を実施して事務局案として「再提案」を行う。(国内支援委員会にて助言を頂く予定。)
- 更新時期を向かえる4研修についても内容について検討し「更新」という方針で関係者と協議予定。(国内支援委員会にて助言を頂く予定。)

道路分野 課題別研修体系図

- 各研修の「カリキュラム」、「研修目標」、「成果」、「対象組織」、「対象人材」、等々について再検討をして、道路分野課題別研修の**全体骨子**を作成する予定。
- 国内機関、研修受託先との協働をして、2020年3月末までに作成を完了する予定。



研修へのエントリーをする際の**迷い**を排除、研修後の**満足度**の向上を図る。

- 長期研修員事業の現状
- 課題別研修
- その他RAMPの活動等





土木学会／JICAオンラインセミナー（道路維持管理）の開催

【概要】

2020年9月30日（水）に土木学会およびJICAの共催※により、道路維持管理に係る知見の共有を、日本の専門家の講義およびミャンマーにて実施中の技術橋梁プロジェクト「道路橋梁維持管理能力向上プロジェクト」を題材としておこなったもの。

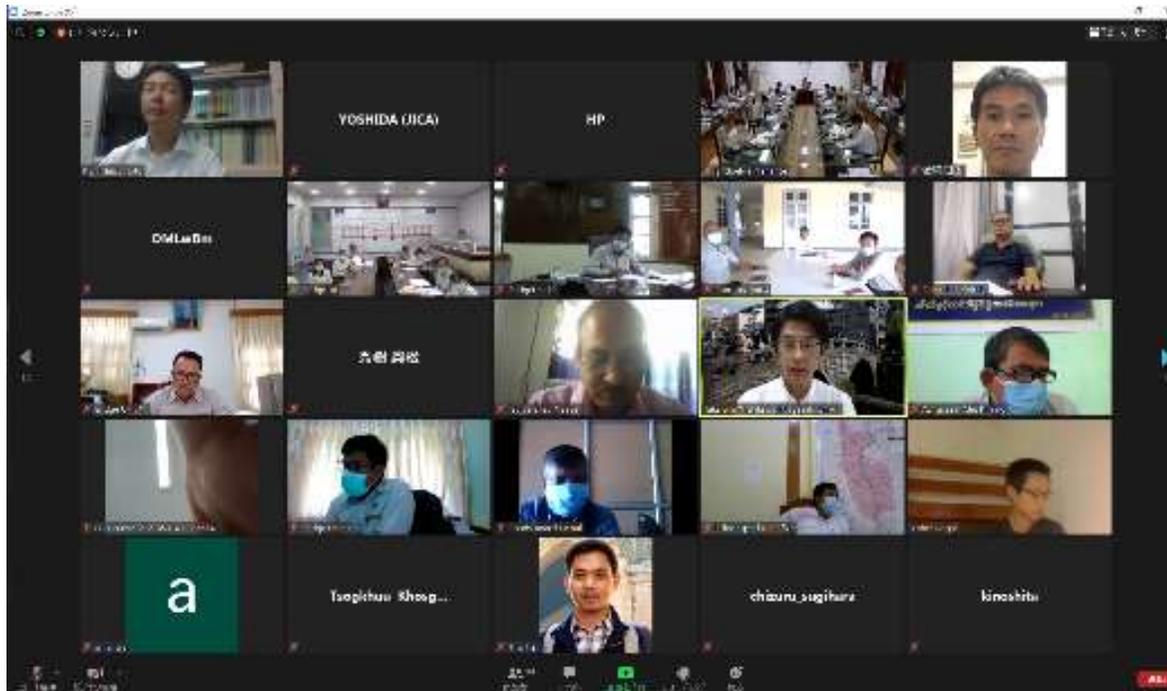
【目的】

意見交換を通じてミャンマーの道路維持管理に携わる道路行政官、研究者に対して講義を通じて日本の道路維持管理の共有を図ること。ウェビナーという利点を活かして広く参加者を募り開発途上国における道路維持管理に係る情報の共有を図る。

【参加者】（道路管理者、コンサルタント、長期研修員、等々）

バングラデシュ18名、ブータン3名、チリ1名、エジプト1名、エチオピア1名、インドネシア1名、日本61名、ケニア3名、ミャンマー24名、ネパール11名、パキスタン1名、フィリピン2名、（12カ国、125名（講師およびJICA本部出席者を除く））

講師：東京大学 長井准教授、長崎大学 西川准教授、北海道大学 松本准教授、岐阜大学 木下准教授
芝浦工業大学 ヘンリー准教授、（5名）



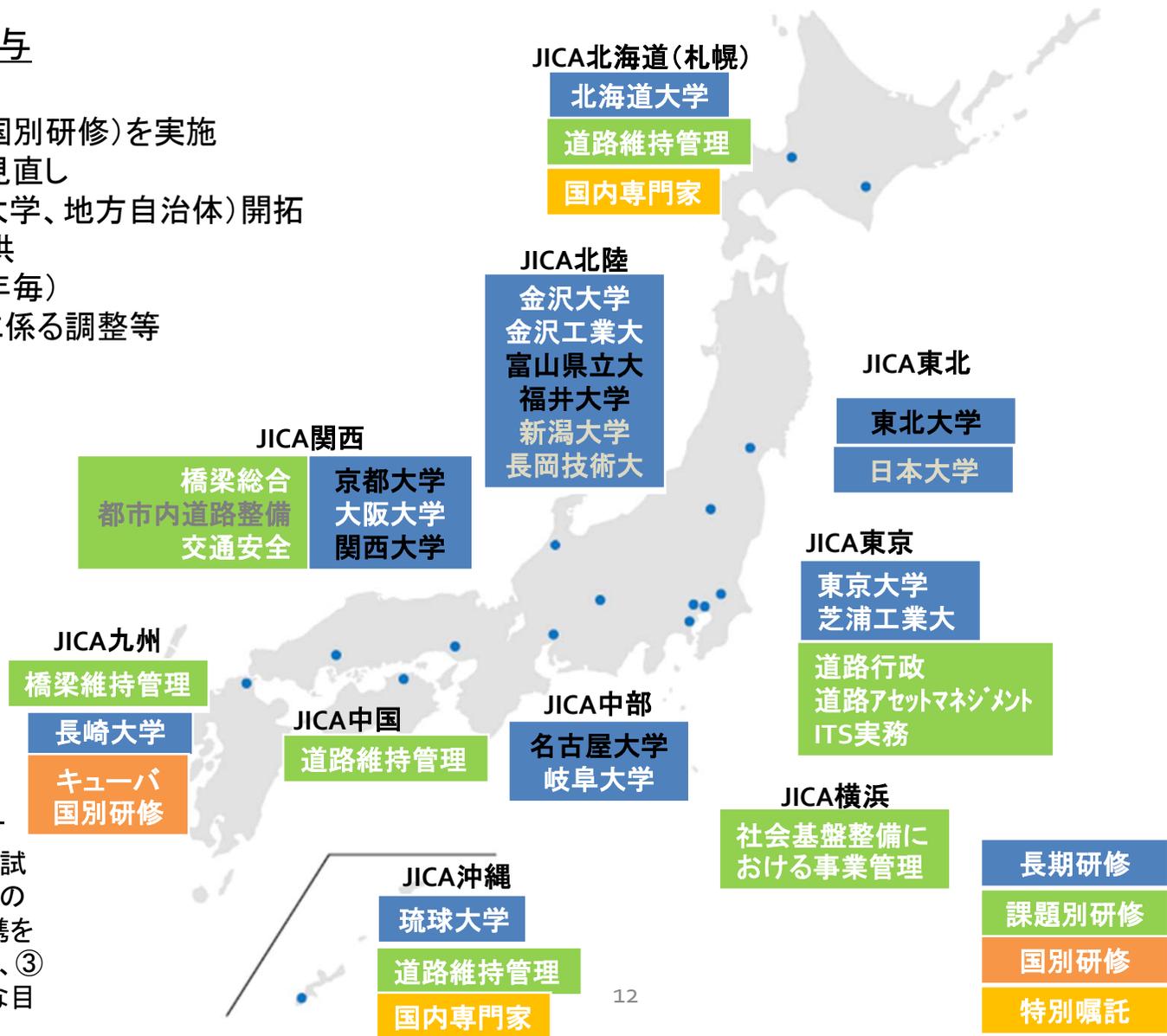
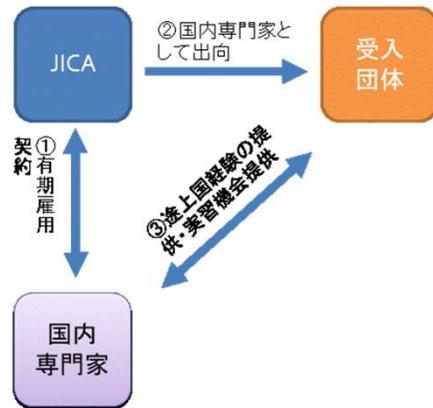
- ラオス政府関係者より「技術協カプロジェクト(橋梁維持管理能力強化プロジェクト)にセミナーで得られた知見を活かしたい」との発言があった。
- 道路維持管理の重要性、PDCAサイクルの説明に加え、AIやドローン等の先端技術を用いた点検手法、さらには鋼橋とRC橋の損傷事例及び対策等について紹介。
- 日本との時差はあるものの、オンラインでの開催という利点を活かし、他国での活動状況の把握や情報交換をリアルタイムで行うことができる貴重な機会となった。

発表題目

- 「Introduction of JICA projects」
(JICA)
- 「Issues in maintenance of road infrastructure in Myanmar」
(Myanmar)
- 「Significance of asset management and its concept」
(Nagai Associate Professor)
- 「Damage example and countermeasures (steel)」
(Nishikawa Associate Professor)
- 「Damage examples and countermeasures (concrete)」
(Matsumoto Associate Professor)
- 「Inspections」
(Kinoshita Associate Professor)
- 「Data utilization and monitoring」
(Nagai Associate Professor)
- 「Knowledge transfer in training programs」
(Henry Associate Professor)

国内拠点のRAMPへの関与

- RAMPの傘下で研修事業
(長期研修、課題別研修、国別研修)を実施
- 課題別研修の体系・骨子見直し
- 国内パートナー(民間企業、大学、地方自治体)開拓
- RAMP事務局への情報提供
- 国内支援委員会参加(半年毎)
- 国内専門※の採用、活動に係る調整等



※国内専門家とは2020-2021年度から試行される、①途上国における国際開発の経験を国内に還元、②国内国外の連携を更に強化することによる事業実施強化、③若年層の国際開発人材の育成、を主な目的とした新たに創設された職種。